

2020年度 入学試験問題
(A日程入学試験 2月1日)

国 語

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、22ページあります。

試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 氏名欄

氏名・フリガナを記入してください。

② 受験番号欄

受験番号を数字で記入してください。

③ 科目欄

解答用紙の科目欄の右の「○」にマークしてください。

4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、解答番号**10**の問いに対して**③**と解答する場合は、次の(例)のように解答番号**10**の解答欄の**③**にマークしてください。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

5. 解答用紙の注意事項を正しく守ってください。特に、訂正する場合は消しゴムでいねいに消し、消しきずはきれいに取り除いてください。
6. 試験終了後、問題用紙は各自持ち帰して下さい。

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちは日本語を漢字仮名交じりで書いています。今日は、それがどのような意味をもつのかを考察しようと思っ
ているのですが、それを見ようとすると、古代に遡らなければなりません。しかし、その前に、検討しておかねばならないいくつかの事柄があります。それは、比較的に近い過去、つまり明治時代に起こった出来事です。なぜそうしなければなら
ないかという点、第一に、明治以後に成立した考え方がわれわれにとってあまりに自明になっていて、古代について考
えても、それを古代に拡張しているにすぎないということがよくあるからです。

^A その一つとして、言文一致という考えがあります。これは、明治二〇年代に、とくに小説家を中心に進められたものです。言文一致は、言（話し言葉）を書くということを意味しているように見えます。しかし、現在でもそうですが、話し言葉は、地域によってまったく違ってきます。実際のところ、言文一致は、それまでの文語体において、その語尾だけを口語化することであり、しかも、その語尾は江戸弁です。その他の地域においては、この言文一致の文章は、少しも言||話し言葉と合致していません。言文一致とは、実際のところ、新たな「文」であり、また、それは標準語として、日本全域に、それを「話す」ように強制された「文」なのです。たとえば、沖縄の人たちは、言文一致の「文」を話すように強制されたわけです。しかし、この新たな文が標準化されることができたのは、すでに「文」がある程度日本全域に確立していた、つまり書き言葉としては共通していて、たんに語尾などを変えればよかったです。

要するに、現在の日本語の文章は、しゃべられていたものを書き写したものではありません。その逆に、われわれは、書かれた文章をしゃべっているのです。こういえば、誰でも反論できないはずですが、ところが、古代の書き言葉を対象とすると、とたんに錯覚に陥るのです。たとえば、『源氏物語』のような文章は、仮名で書かれているから、同時代の口語（大和言葉）を書き写したものにちがいない、と考える人が多い。『源氏物語』は、同時代にすでにかなり広範囲に読まれたことがわかっています。しかし、そ^B

れが話し言葉を書き写したものであるとするのは、明らかにおかしい。というのは、現在でも各地の方言まる出しでしゃべられると通じないのだから、当時の人たちが、せいぜい京都の宮廷で使われていたような話し言葉を理解できたはずがないからです。

たとえば、江戸時代、参勤交代というシステムのために江戸に集まった各地の武士は、互いに話を通じないので、謡曲や漢文にもとづく侍言葉を作りだした。それは、古典落語からわかるように、江戸っ子から馬鹿にされていますが、やむをえないものでした。その場合重要なのは、彼らが全国に普及している「書き言葉」をもとに「話し言葉」を作ったということです。実は、これは、平安時代についてもいえるはずですが、たとえば、なぜ『源氏物語』が広範囲に読まれたのか、そして、それがまもなく規範的な古典になっていったのか。それは、『源氏物語』が、すでに存在し全国で通用していた文語に依拠し、それをあたかも「言文一致」のように書いたものだったからです。あとでいうように、その文語とは漢文です。あるいは、漢文を読むことよってつくり出された日本語のエクリチュール（書き言葉）です。

こうした事柄は、言語史をくわしく参照しなくても、明治以後の経験から理解できることです。というよりも、言語史のような学問こそ、いうならば、「言文一致」以後の錯覚に陥っていて、それを古代に投射しているのです。むしろ、われわれは、ただちに古代に向かつてはいけません。われわれは、まず、近い過去の経験を検討しなければなりません。たとえば、「日本語」（国語）は、きわめて新しい概念です。いうまでもなく、それは明治以後の近代国家において形成された概念であり、また義務教育、言文一致、標準語化という過程でできあがったものです。古代に、というより、江戸時代にも、「国語」などありません。たしかに江戸時代に国学者が「大和言葉」を見いだそうとしましたが、それは一八世紀後半であり、萌芽的に近代ナショナリズムにつながるものです。要するに、「古代」とは、せいぜい一八世紀後半に見いだされた想像物なのです。

古代に実際どのようなことがあったのか。私は、それにかんして、専門家に任せるほかありません。しかし、専門家が最初から前提してしまっているものを疑うことができますし、そうせざるをえないのです。しかも、そのことは、特別に古代について研究しなくても、現在を考察すればわかる事柄です。というよりも、もし現在の問題を考えているのでなければ、古代を研究したところで何の役に立たないばかりか、むしろ有害です。なぜなら、客観的な歴史的研究という「近代的」な考えのなかには、つねに暗

黙に、「近代」あるいは「近代国家」の要請がひそんでいいるからです。それは、たとえば、「国語」や「日本国家」が古代から確固としてあったかのような錯覚を与えます。

明治時代の近代化は西洋との接触によって起こったのですが、それが古代の日本において中国との接触によって生じたことと類似していることは、誰でも気がつきます。しかし、人がそれに気づくのは、まさに明治以後の近代化を経験したからです。そうだとしたら、古代の問題を考えると、すでに、その体験が投影されているはずで、問題は、それを古代に投射することにあるのではなく、あたかもそうでないかのように、つまり、客観的な過去が存在するかのように見てしまうことです。われわれは、逆に、近代日本に起こった転倒を、過去にも見いだすべきなのです。いいかえれば、もし言文一致がある錯覚、隠蔽をもたらすものだとしたら、それを、古代においても見るべきです。

たとえば、漢字が日本に厳密にいつ到来したかという問いにたいして意味はありません。確実なのは、それが奈良時代において、不可欠なものとして存在していたことHです。それは、律令制の導入ということとつながっています。その場合、注意すべきことは、第一に、「西洋化」が日本に限らず、西洋による植民地化の下にアジア全域に生じたように、「中国化」も、東アジアの全域において生じたことです。たとえば、奈良時代には、中国から法制度（律令制）が全面的に導入された。これは、中国の周辺においてどこでも生じたことです。隋・唐帝国はその意味で一つのユニヴァースであり、その法制度はユニヴァーサリティをもっていました。それは、律令制のアイデアが本来中国ではなく、その周縁の国家から出てきたことと関係があると思います。それが隋王朝によって採用されたわけです。エーバーハルトは、それが中国北方の拓跋たくはつにおいて創始されたといっています。

この制度もまた日本に導入されたらしく、七世紀の日本上流階層家族の複雑な等級制度は、拓跋の制度と照らしあわせてみると、いちばん説明しやすいようである。じっさい、日本の社会、文化のなかで唐王朝から借りたとみられている多くの特徴は、じつは拓跋からの借りものであったようだ。ほんものの中国人がいつも「異国人」とみなしていた日本の統治者たちにとって、同じく「異国人」であった拓跋のほうが、たぶんより身近に感じられたのであろう。

つまり、律令制は、たんに中国から輸入したというよりも、この時代に、東アジア全域に並行的に生じたものです。なぜなら、それは一種近代的な政治的技術のようなものだったからです。仏教にかんしても同じことがいえます。日本に来た仏教は中国において翻訳されたものでし、それはさまざまな技術・医療などをともなう文明でもあったのです。しかし、なぜ仏教がそのとき導入されねばならなかったのか。それは、大和朝廷がたんなる部族連合から「国家」へと発展するために不可欠だったからです。というのは、さまざまな部族、氏族は、それぞれ違った神々を信仰していますから、それを統一するためには天皇家の氏神では無理です。そうした神々を超えた普遍的な「神」がいる。つまり、部族・血縁を超えた「世界宗教」が必要でした。

ところで、日本の明治から大正にかけてと同じようなことが、奈良から平安時代にかけて起こっています。

I

私小説はもともと西洋の近代小説の影響からはじまったのですが、私小説家らは、徐々に、こうした私小説に、独自の意味づけを与えはじめます。芥川龍之介^Jがそうでしたが、こうした小説の非構築化は西洋に比べても先端的なものだといっています。しかし、こういう「日本化」は、もともと「西洋化」があつてこそ生じたものです。

平安時代に起こったことも、それと類似しているでしょう。そのころは、中国のほうの帝国の衰退があつたし、中国との関係が非常に希薄になったわけです。遣唐使も派遣されなくなりました。日本のなかでは、いちおう形の上では律令制を保つてはいます。実は、この律令制は、明治維新まで形の上では存続しているのです。しかし、形式的にはそうだけでも、実質的には、それとは異質の政治的・経済的なシステムが出てきた。それは摂関政治や荘園制といわれるものです。文学でいうと、仮名文字による歌や物語が栄えたということになります。今いったように、それは明治から大正に起こったことと、並行していると思います。

^Kただ、明治に起こったことは、たんにそれまでは中国が相手だったのが、西洋が相手になったというだけではすみません。明治時代には、西洋の概念はほとんど漢語に翻訳された。たとえば、封建制という言葉がありますが、それは江戸時代にもありました。それは中国では、郡県制という概念に対立するものです。古代の周は封建制であり、秦^{しん}は中央集権的な郡県制です。明治維新とは、

この意味での封建制を廃止して郡県制にする、ということだった。だから、真つ先に「廃藩置県」がなされたわけです。しかし、その後、西洋史における feudalism という概念が封建制と訳されました。ある意味では、明治維新は西洋的な意味での封建制を解体するブルジョア革命でした。しかし、同時に、それは、中国的な観念における「革命」でもあったのです。

たとえば、儒教が国民教育を通して一般化されたのは、むしろ明治時代です。つまり、重要なのは、明治時代の「西洋化」は、別の面から見れば、「中国化」でもあったということです。それは、西洋の概念が漢語に訳されたということにもとづいています。したがって、文字の問題は重要な鍵を握っているのです。

（柄谷行人 『戦前』の思考』 文藝春秋 一九九四年より引用 問題作成の都合上一部変更）

問一 傍線部A「その一つとして、言文一致という考えがあります」という記述に即して、「言文一致」の内容を述べている文として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **1**。

- ① 言文一致は、すでに日本全域に確立していた文を標準語化したものである。
- ② 言文一致の文章は、地域の違いをなくし、話し言葉と文語を一致させた。
- ③ 言文一致でつくられた文は、標準語として日本全域で話すように強制された。
- ④ 言文一致は、話し言葉を「文」として話すということを意味しているように見える。
- ⑤ 言文一致は、口語の語尾だけを江戸弁に文語化してつくられた。

問二 傍線部B、C、D、E、Fの「それ」という代名詞の中には、同じ語句を指示しているものが二つある。同じ語句を指示している「それ」の組み合わせについて、次の①～⑤の中から最も適切なものを一つ選びなさい。解答番号は **2**。

- ① BとC
- ② DとE
- ③ BとF
- ④ CとE
- ⑤ BとD

問三 傍線部G「われわれは、まず、近い過去の経験を検討しなければならない」と著者が主張する理由は何か。最も適切なものを①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **3**。

- ① われわれは、「言文一致」以後の錯覚に陥っていて、その錯覚を近い過去に投射しているから。
- ② われわれは、古代や江戸時代に「国語」があったと考え、近代国家の要請を錯覚しがちだから。
- ③ われわれは、明治以後に成立した考え方を古代に拡張しているにすぎないかもしれないから。
- ④ われわれは、『源氏物語』が口語体を文語体に書き写したものだと考えないから。
- ⑤ われわれは、「国語」や「日本国家」が近代からあったかのように考えがちだから。

問四 傍線部H「それは、律令制の導入ということとつながっています」という文に関係のない記述はどれか。次の①～⑤の中から最も適切なものを一つ選びなさい。解答番号は **4**。

- ① 律令制は、政治的技術のようなものだった。
- ② 律令制は、中国から出てきたアイデアだった。
- ③ 律令制は、拓跋からの借りものであった。
- ④ 律令制は、ユニヴァーサルティをもっていた。
- ⑤ 律令制は、東アジア全域に生じたものだった。

問五 空欄部 I には、次の枠内のイ〜ホで構成された文章が入る。論旨が通る順に並べ替えたものとして最も適切な番号を

解答欄に書きなさい。解答番号は 5。

イ 一口でいうと、それはプロット（筋）もない、構成もないような小説です。

ロ そこで、だんだんと「日本的」なものが出てきます。

ハ そうすると、何でも西洋の真似をしようとする動機が弱まってくる。

ニ 大正時代というのは、日露戦争の後ですから、西洋に対する緊張がなくなります。

ホ その典型は、文学では、私小説です。

- ① ロ ↓ ホ ↓ イ ↓ ニ ↓ ハ
- ② ロ ↓ イ ↓ ニ ↓ ホ ↓ ハ
- ③ ロ ↓ ハ ↓ ニ ↓ イ ↓ ホ
- ④ ニ ↓ ロ ↓ イ ↓ ホ ↓ ハ
- ⑤ ニ ↓ ハ ↓ ロ ↓ ホ ↓ イ

問六 傍線部J「芥川龍之介」について、この小説家の作品の題名になっている言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 6。

- ① 手
- ② 口
- ③ 足
- ④ 目
- ⑤ 鼻

問七 傍線部K「ただ、明治に起こったことは、たんにそれまでは中国が相手だったのが、西洋が相手になったというだけではない。すみません」という著者の見解を示す内容と異なる文はどれか。次の①～⑤の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

解答番号は 7。

- ① 西洋の概念が漢語に翻訳されたということは、既に輸入されていた言葉に別の観念が与えられたということである。
- ② 封建制という言葉は *feudalism* の訳語で、概念としては中国にも西洋にもあった。
- ③ 明治維新は西洋の概念を輸入したのではなく、西洋的な封建制を解体する革命だった。
- ④ 明治時代の「西洋化」は日本が西洋の概念を輸入したようにみえて、実は日本の「中国化」でもあった。
- ⑤ 廃藩置県は、封建制の廃止ではなく秦の政治体制だった郡県制の導入だった。

問八 次の文章の中で、著者の論考と異なることを記している文はどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

8

- ① 明治以後に成立した考え方を古代に拡張するのは、文字の問題を錯覚した誤った方法である。
- ② 『源氏物語』が大和言葉で書かれているのは、それが当時の話し言葉であったからではない。
- ③ 平安時代でも江戸時代でも、日本全域に普及していたのは書き言葉、つまり漢語だった。
- ④ 明治から大正にかけて起こった「日本化」は、平安時代にも起こっていた。
- ⑤ 奈良時代には漢字は不可欠なものになっていた。このことは、大和朝廷が律令制を導入したことに遡る。

問九 次の1～5の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

9

く

13

1 米中貿易マサツは長期化している。

9

- ① 搽 ② 撮 ③ 刹 ④ 察 ⑤ 擦

2 各省庁は来年度のガイサン要求を提出した。

10

- ① 慨 ② 概 ③ 効 ④ 涯 ⑤ 外

3 三ツ星評価のカクトクを目指している。

11

- ① 各 ② 核 ③ 格 ④ 獲 ⑤ 確

4 事態ダカイに向けて粘り強く取り組みたい。

12

- ① 妥 ② 打 ③ 惰 ④ 田 ⑤ 馱

5 増税によって景気が冷え込むケネンはある。

13

- ① 懸 ② 怪 ③ 気 ④ 化 ⑤ 仮

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は本能が壊れた動物であるということを、わたしはかねがね主張しているが、嫉妬の起源もそこにある。

嫉妬は人間に特有の感情である。たとえば、犬を二匹飼っていて、一匹を散歩に連れ出そうとすると、残される犬が不満をあらわにして吠えるが、これは犬が嫉妬しているのだとし、人間以外の動物にも嫉妬はあると言う人がいる。しかし、犬はおれも連れて行ってくれと吠えているだけであって嫉妬しているのではないと思う。嫉妬とは、自分より優れていると感じられ、自分を劣等感の地獄に突き落とす他者を自分以下の位置に引きずり落とし、そうすることによって、自分の劣等感を解消し、優越感を取り戻そうとする暗い陰惨な衝動であって、動物にはそのような衝動はないのではないか。残される犬は散歩に連れて行ってもらえる犬に飛び掛かって咬み殺そうとはしないであろう。

そのような衝動を持つのは人間だけであると思うが、それは人間が自我を持っているからである。人間が自我を持っているのは本能が壊れたからである。本能とは行動指針であり、本能が壊れ行動指針が狂ってしまった人間は、どうやって生きてゆけばいいかわからなくなったわけで、そのとき滅亡してもおかしくなかった。だが、どういうわけか、一部の人間が本能の代用品として自我を構築するという奇妙な方法を発明し、その一部の人間が生き残って、人類は辛うじて滅亡を免れた。人間はそれ以来、自分は人間だから、男だから、女だから、社長だから、日本人だから、医者だから、学生だから、などのさまざまな自己規定に基づいて行動を選択し、決定するようになった。

このように、自我は本能が壊れた人間が生きてゆくために必要不可欠であるが、本能と違って、自我は現実的根拠がなくA的につくり上げた幻想であるから、基本的に不安定であり、いろいろ欠陥がある。その第一の欠陥は、現実的根拠がない幻想である。自我を支えるためには、いろいろ面倒で困難な操作が必要だということである。人間は、自我の存在を何とか根拠づけるために、自分は優れているとか、価値があるとか、人々に尊敬されているとか、ある人に愛されているとか、社会に必要とされているとか、などと信じていることができなければならない。

自我を支えるのは、そう容易なことではないが、何らかの根拠を見つけて、あるいはつくり出していったん支えることに成功したとしても、その根拠は崩れやすく、自我はともすればまた不安定になる。自我は決定的に安定することはなく、自我を安定させる努力は永久に続けなければならない。人間が、傍目には、功なり名を遂げて、あるいは、大金持ちになって、あとは何もせず落ち着いて悠々自適の生活を送ればいいだけのように見えていても何かをせすにいられないのは、どれほど満ち足りた状態にあらうが、自我の決定的安定はないからである。

B、人間は、自分は優れた価値ある存在であるという自我像を信じていなければ生きてゆけないのだが、この自我像を脅かすのは、自分より優れ、自分より高い価値がある他者である。この他者を自分より下に引きずりおろしたい衝動が嫉妬である。英雄と英雄が並び立てないのも、嫉妬のためである。

自分より優れ、自分より高い価値がある他者なんてものは無数にいるから、そして、その人たちをみんな自分より下に引きずりおろすことなどはできないから、人間は誰でもみんな多かれ少なかれ嫉妬に囚われている。嫉妬こそは、ほかのいかなる感情にもまして、**C**である。

人間は一人では生きてゆけず、生きるためには集団を形成しなければならないが、本能が壊れているため、蟻や蜂のように本能に基づいて集団を形成することはできない。そこで、**A**的に集団を形成せざるを得ないわけだが、そのために最大の妨げになるのが嫉妬である。お互いに引きずりおろし合っているは集団の秩序は保てない。集団が崩壊するのも、ほかのいかなる原因にもまして、集団のメンバーのあいだの嫉妬のためである。

集団を形成し、維持するためには、人々の嫉妬をできる限りコントロールしなければならない。このコントロールに失敗すれば、集団は限りなく分裂し、最後に人々はばらばらに孤立して滅亡する。

しかしまた、嫉妬は個人が自我を守るための防衛策でもあるから、否定してしまえば自我の存立が危うくなる。嫉妬は、抑制しなければならないが、否定してしまってもならず、非常に扱いにくいのである。

そういうわけで、嫉妬をどうするかは、人類の歴史が始まって以来のきわめて重要かつ困難な問題であったと思われる。人々は嫉妬をコントロールするために知恵を働かしているいろいろな策を講じてきた。

社会階級の形成は、そのための策の一つであったと思われる。別の階級に属する者は、比較の対象から外される。貧しい農民は、王侯貴族が威張っていて贅沢ぜいたくな生活をしていても嫉妬しなかった。

英雄崇拜も同じような策であろう。ある者を一般の人々とは比べものにならない特別に優れた存在とし、人々は彼を崇拜するという共通点としてまとめ、彼を崇拜しない外部の集団に嫉妬を向ける。彼らは、外部の集団が彼らより優れていたり恵まれていたりするのを許さない。そして、自集団のなかでの嫉妬はある程度、緩和される。

人々に「身の程を知る」ことを求める道徳は階級制度の一環であろう。階級制度によって規定された身分の限界以上のことを望むことは、とんでもないこととされた。人々が、それぞれの「身の程」を守れば、嫉妬で傷つけ合うのを防ぐことができたわけである。

D、近代になって、階級制度は否定され、万人の平等が叫ばれるようになった。すると、禁じられていた嫉妬が解放され、王侯貴族が贅沢な生活をしているのは不当であるということになった。そこで、革命が起こり、王侯貴族は殺害され、あるいは追放された。「嫉妬の時代」が始まったのである。

「嫉妬の時代」である現代においては、さらに進んで平等が絶対的に正しい **E** となったため、昔よりもはるかに激しく嫉妬の嵐が荒れ狂うようになった。能力の平等も唱えられ、誰でもみんな潜在的には同じ能力を持っていることになったため、学校で、成績の悪い生徒は怠け者と見られて親や教師に叱咤しつた激励され、成績の悪い生徒なりの居場所を奪われて、さらに劣等感が強くなり、成績のいい子を嫉妬し、憎むようになった。一般社会においても、恵まれない境遇にある者は、身分の違いによるのではなく、不運とか、誰かの悪意とか、政治の失敗とかのせいであるということになって納得できず、恵まれた者を嫉妬し、ますます不満を募らせるようになった。

F、平等主義がいけないというのではない。平等主義は多くの不合理な差別を解消し、多くの人々に幸福への可能性を開いたが、パンドラの箱を開け、嫉妬という厄介なものを野放しにしたことも確かである。

階級制度が崩れて野放しになった嫉妬をどうするかは現代の最大の問題の一つである。もちろん、階級制度によって嫉妬の問題がすべて解決されていたわけではなく、階級制度下においても、個人個人が嫉妬にどう対処するかは小さくない問題であったであろうが、現代においては、まさに個人が自他の嫉妬の問題をすべて自ら引き受けなければならなくなったと思われる。

G

人間である限り H はあり、 I がある限り J はあるのだから、男と女とで嫉妬に変わりはないが、「嫉妬」という漢字が二つとも「女」偏であるのは、昔は男が女を支配していたため、嫉妬という醜い感情をもっぱら女に押しつけたからであろう。人間は、自我の価値にかかわる事柄に関してもっとも強く嫉妬する。したがって、女の自我の価値が男に愛されることにもっぱら左右されていた時代には、女の嫉妬が主に「愛」に関して起こったのは当然であった。その時代の男の嫉妬は主として「権力」や「地位」に関して起こっていたであろう。しかし今や、その点について男女の違いはほとんどなくなったので、男も女に愛されることを巡って嫉妬するようになり、近年、その種の男の嫉妬が目立つのであろう。

われわれの敵とは、要するに、われわれに嫉妬する者である。人間は、自分に現実的損害を与える者よりも、自我を脅かし、嫉妬を感じさせる者を、もっとも憎み、もっとも激しく攻撃するからである。嫉妬されるほど恐ろしいことはない。したがって、敵をつくらないためにもっとも重要なことは、嫉妬させないことである。自慢話、手柄話が嫌われるのは嫉妬を招くからである。人々は自慢話、手柄話をする者を決して許さない。われわれが貧乏話や失敗談を好んで披露し、控え目に謙虚に振る舞い、「能ある鷹たか爪を隠す」のは、嫉妬されるのを避けるためである。「出る杭が打たれる」のは嫉妬されたからである。人を嫉妬する者と同様、人の嫉妬を侮る者も呪われて落とし穴に落ちるであろう。昔から、人々はそれを知っていて、嫉妬されないようにこれらの策を講じてきたと思われるが、現代ではますますそうした用心が必要であろう。

嫉妬は、とくに卑劣な者だけが持つ衝動ではなくて、ごく普通の者が持つ卑劣な衝動である。嫉妬される者にとって嫉妬は恐ろしいが、嫉妬する者にとっても嫉妬は苦しい。われわれは、自分が人に嫉妬していることを認めたくない。それは、自分がその人より劣っていることの何よりの証拠だからである。したがって、いったん嫉妬し始めれば不可避免的に悪循環の地獄に陥る。嫉妬していることが劣等感を強め、強められた劣等感がさらに嫉妬を煽るからである。

われわれは、この悪循環の地獄から逃れようとして、嫉妬を正当化し、相手を悪人に仕立て上げ、悪人に対して正義の鉄槌を下すつもりになるうとするが、このような自己欺瞞は長続きしない。それが自己欺瞞であることは相手には明らかであって、そのような自己欺瞞にすぎたる見苦しいわれわれを相手はますます軽蔑し、それを感じてわれわれはさらに劣等な状態に追い込まれる。

（岸田秀 『「哀しみ」という感情』 新書館 二〇〇八年より引用 問題作成の都合上一部変更）

問一 空欄部 **A** (二カ所ある)に入る語句として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **14**。

- ① 人為
- ② 合理
- ③ 実践
- ④ 観念
- ⑤ 画一

問二 空欄部 **B**、**D**、**F**に入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解

答番号は **15**。

- ① B…むろん D…つまり F…ただし
- ② B…しかしながら D…そこで F…むろん
- ③ B…したがって D…もつとも F…ところで
- ④ B…いわば D…確かに F…もつとも
- ⑤ B…要するに D…しかし F…もちろん

問三 空欄部 **C** に入る語句として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **16**。

- ① 人類衰退の一般的条件
- ② 人類進化の生理的条件
- ③ 人間滅亡の決定的条件
- ④ 人類繁栄の社会的条件
- ⑤ 人間存在の基本的条件

問四 空欄部 **E** に入る語句として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **17**。

- ① 権謀術数
- ② 金科玉条
- ③ 流言飛語
- ④ 大所高所
- ⑤ 千編一律

問五 空欄部 **G** には、次の枠内のイ〜ホで構成された文章が入る。論旨が通る順に並べ替えたものとして最も適切なものを①

〜⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **18**。

イ 多くの人が豊かさを享受しているが、相対的に恵まれない人たちも存在し、その人たちの、豊かな人への嫉妬は強烈である。

ロ これは、みんなが一緒に貧乏であるのは耐えられるが、豊かであっても、ほかに自分より豊かな者がいるのは耐えられないということである。

ハ 現代においては、日本もそうだが、先進国では豊かな社会が実現した。

ニ みんなが一緒に貧乏であれば、少なくとも嫉妬の苦しみは免れられるからである。

ホ 昔、孟子^{もう}か誰かが「不患貧、患不均」(貧しきを患^{うれ}えず、均^{ひと}しからざるを患^{うれ}う)とか言って人々の共感を得たが、

- ① ハ ↓ ホ ↓ ロ ↓ イ ↓ ニ
- ② ハ ↓ ホ ↓ イ ↓ ロ ↓ ニ
- ③ ハ ↓ ニ ↓ ロ ↓ ホ ↓ イ
- ④ ホ ↓ ロ ↓ ニ ↓ ハ ↓ イ
- ⑤ ホ ↓ ハ ↓ ニ ↓ イ ↓ ロ

問六 空欄部 H、I、J に入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解

答番号は 19。

- | | | | |
|---|------|------|------|
| ① | H…本能 | I…自我 | J…嫉妬 |
| ② | H…嫉妬 | I…本能 | J…自我 |
| ③ | H…自我 | I…自我 | J…嫉妬 |
| ④ | H…本能 | I…本能 | J…自我 |
| ⑤ | H…嫉妬 | I…嫉妬 | J…自我 |

問七 傍線部 K 「現代ではますますそうした用心が必要であろう」という記述について、著者がこのように考える理由として適切

なものをつきの①～⑤の中から二つ選びなさい。解答番号は 20・21。

- ① 恵まれない境遇の人たちの恵まれた人への不満がますます増大しているから。
- ② 男も女も、愛されることを巡って、同じように嫉妬するようになってきているから。
- ③ 功なり名を遂げて、悠々自適の生活を送りたいと思う人たちが増えているから。
- ④ 少しの油断もできないくらい、社会における競争が激しくなっているから。
- ⑤ 地域社会のなかで、ますます協調性が求められるようになってきているから。

問八 本文の内容に合致しないものを、次の①～⑤の中から二つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は

22

23

- ① 人々は知恵を働かして、嫉妬をコントロールするために、社会階級、英雄崇拜などの策を講じてきた。
- ② 嫉妬を正当化することは、自分の心を欺くことであり、結果的に自分が劣っているという感情を強める。
- ③ 人間以外の動物、たとえば犬にも嫉妬はあるが、嫉妬に駆られて他の犬を咬み殺そうとまではしない。
- ④ 人類は自我を構築することで滅亡を免れたが、自我を決定的に安定させるには大変な努力が必要である。
- ⑤ 嫉妬は陰気でむごたらしい衝動であるが、いやしく下劣な人だけでなく、ごく一般の人も持っている。

問九 次の1～5の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

24

く

28

。

1 面接官のシンシヨウを害してしまった。

24

- ① 症
- ② 証
- ③ 象
- ④ 称
- ⑤ 省

2 すぐにミーティングを開いてゼンゴサクを講じた。

25

- ① 前
- ② 漸
- ③ 全
- ④ 禪
- ⑤ 善

3 これに失敗すれば、イッカンの終わりだ。

26

- ① 貫
- ② 完
- ③ 冠
- ④ 卷
- ⑤ 閑

4 サンプルを任意にチュウシュツする。

27

- ① 抽
- ② 挿
- ③ 鑄
- ④ 注
- ⑤ 酌

5 その人はカイシンの笑みを浮かべた。

28

- ① 快
- ② 介
- ③ 会
- ④ 怪
- ⑤ 改

I

解答番号	解答欄					
1	①	②	③	④	⑤	5点
2	①	②	③	④	⑤	5点
3	①	②	③	④	⑤	5点
4	①	②	③	④	⑤	5点
5	①	②	③	④	⑤	5点
6	①	②	③	④	⑤	5点
7	①	②	③	④	⑤	5点
8	①	②	③	④	⑤	5点
9	①	②	③	④	⑤	2点
10	①	②	③	④	⑤	2点
11	①	②	③	④	⑤	2点
12	①	②	③	④	⑤	2点
13	①	②	③	④	⑤	2点

II

解答番号	解答欄					
14	①	②	③	④	⑤	5点
15	①	②	③	④	⑤	5点
16	①	②	③	④	⑤	5点
17	①	②	③	④	⑤	5点
18	①	②	③	④	⑤	5点
19	①	②	③	④	⑤	5点
20	①	②	③	④	⑤	5点
21	①	②	③	④	⑤	
22	①	②	③	④	⑤	5点
23	①	②	③	④	⑤	
24	①	②	③	④	⑤	2点
25	①	②	③	④	⑤	2点
26	①	②	③	④	⑤	2点
27	①	②	③	④	⑤	2点
28	①	②	③	④	⑤	2点

※20, 21については順不同

※22, 23については順不同